

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第3号(7月))

標記について、次のとおり発表します。

《7月の病虫害発生予報》

＜作物＞

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲		いもち病			
		縞葉枯病 (ヒメビウカ)			
			ニカメイガ		
ジャンボタニシ(発生に注意)					

＜果樹類＞

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なしご			べと病		
			褐斑病		
			晩腐病		
				ハダニ類	
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
クビアカツヤカミキリ(発生に注意)					
みかん			黒点病		
			そうか病		
			かいよう病		
				ハダニ類	
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般		果樹カメムシ類			

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
				灰色かび病		
			うどんこ病			
			ミナミキイロ アザミウマ			
					ミカンキイロ アザミウマ	

<花き類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病		
				白さび病		
		アザミウマ類				

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類 全般				アブラムシ類		
			ハモグリバエ類			
			コナジラミ類			
				ハスモンヨトウ		
					シロイチモジ ヨトウ	
				オオタバコガ		
			コナガ			

《今月のトピックス》

- 発生が平年よりやや多いと予想される病害虫
病気は予防的防除、害虫は発生初期の防除が重要です。
【ぶどう、みかん】ハダニ類
【なす】ミカンキイロアザミウマ
【野菜類・花き類】シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ
- 地域により発生が増えており、今後の発生に注意が必要な害虫
【水稲】 ジャンボタニシ
【もも、うめ、すももなどバラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

《(参考)7月の気象予報》(大阪管区气象台6月27日発表)

気温	低い (30%)	平年並 (40%)	高い (30%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・置き苗が発生源になるので、早く処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県においてQoI剤（アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等）耐性菌の発生が報告されている。
縞葉枯病 （ヒメトビウンカ）	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は越冬虫の捕獲虫数がやや少なかった。 ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・保毒検査で、保毒したヒメトビウンカは確認されなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。
ニカメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯、フェロモントラップへの飛来は平年と同様に見られなかった。 ・昨年度のは場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。
ジャンボタニシ （スクミリンゴガイ）	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、生息地域が拡大している。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植後20日まで水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は捕殺する。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。 ・露地栽培で発生が多い。

褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培で発生が多い。 ・収穫後、無防除のほ場で発生が多い。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度発生があったほ場では予防散布に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。 ・露地栽培で発生が多い。
ハダニ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・梅雨明け後、加速的に増殖する場合がありますので注意する。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる被害葉、果実を除去し、適切に処分する。 ・降雨前の薬剤防除が効果的である。 ・収穫期を迎えているので、薬剤散布の際は収穫前日数に注意する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
クビアカ ツヤカミキリ	発生に注意	<p>予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫を見つけ次第、捕殺する。 ・幼虫は4月～10月頃にフラス（中華麺～うどん状に固まる木くず等の混合物）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 <p>※「クビアカツヤカミキリに注意！」（5月7日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyo.jyouhou/H3105kubiaka.pdf</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に処分する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。
かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生が多い園地では、落弁期～幼果期の防除を徹底する。
ハダニ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、一部ほ場で発生が多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・梅雨明け後、加速的に増殖する場合がありますので注意する。

4 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避ける。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なるので、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年より発生は少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。) <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が 23~28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので、花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、20℃程度、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日照不足、他の病気よりは乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフエット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、施設栽培での発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、多発生時には防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。0.8mm 目合の赤色ネットは、0.4mm 目合の白色ネットと同等の効果がある。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

ミカンキイロ アザミウマ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、施設栽培での発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。
-----------------	------	--

D 花き類 きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地で発病が多い。最終摘心後、降雨の多い場合に多発する。
白さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件で発病しやすく、露地栽培では初夏～梅雨時と秋期に多発する。
アザミウマ類	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。 ・膜割れ（蕾から着色した花卉が見える前）前後の防除を徹底する。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため抜き取り、または株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出して処分する。 ・施設では、開口部を0.6mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。
コナジラミ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出して処分する。 ・施設では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介する。
ハスモンヨトウ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）の防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は先月に引き続きやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）の防除を徹底する。卵塊や集団にいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>※「シロイチモジヨトウに注意！」（6月11日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R0106shiroiti.pdf</p>
オオタバコガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 ・巡回調査での発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府の発生状況と気温から算出した発生予測モデルでは、<u>本年第1世代成虫の発生ピークは、6月末～7月初頭と推定され、幼虫の防除適期はその7～10日後の7月上中旬と予想される。</u> ・発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ・予察灯での誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ
(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。

- 病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

- おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

- Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

- 「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>

「暑さ指数情報発信サービス登録サイト」(環境省熱中症予防情報サイト内)

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php

大阪府では、府民のみなさまに夏の暑さに備えていただくため、「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設しています。「暑さ対策」の情報サービスのお知らせや暑さをしのぐ工夫や情報もごさいます。熱中症対策に是非ご活用ください。